

## 令和6年度第2回林業アカデミーふくしま運営会議 議事概要

1 日 時 令和7年1月28日(火) 10:00~12:00

2 場 所 自治会館 301 会議室

3 出席者 別紙出席者名簿のとおり

4 結 果

(司会進行：森林計画課 渡部主任主査)

○挨拶：農林水産部森林計画課長 鈴木千秋

令和6年度林業アカデミーふくしま就業前長期研修は、昨年4月から始まり、これまでに各種研修やインターンシップなどに日々努力し、実践力を着実に身につけており、早いもので来月の修了を迎えようとしている。

また、今年で4年目となる短期研修においては、市町村林務担当者や林業従事者等、多くの方々に受講いただき、業務で必要となる森林・林業の基礎知識や実務、森林施業の技術などを学んでいただいた。

本日は、第1回会議での御意見を踏まえた対応や、今年度下半期の就業前長期研修、短期研修の運営状況、令和7年度研修生の募集状況について御説明するとともに、令和7年度の研修計画等について、委員の皆様より御意見や御助言をいただきたいと考えている。

限られた時間ではあるが、皆様には忌憚のない御意見を賜るようお願い申し上げます。

○議事（議事進行：藤野座長）

議題（1）令和6年度研修の下半期の実施状況と令和7年度研修計画（案）

【事務局】

（資料1～2に基づき説明）

【事務局】

令和6年12月に、長期研修の架線集材の研修において、研修中に元柱の基部が折損した。なお、これによる怪我人はいなかった。破損した原因は現在究明中。

≪藤野座長≫

これについて、（講師を務めていた）半田委員より補足願う。

〈半田委員〉

埴実習フィールドでの研修は、実習の最終に行う研修となっており、最新型のリモコン操作による運転操作を行う研修である。

今回の破損は、横取り操作を行っていた際に発生した。通常、このような場合はワイヤが切れることが起こりやすく、大変危険である。今回は元柱が座屈して他には影響がなかった。

通常の架線集材においては、こうした構造物を立ててやるのは現実的ではないので、修復に当たっては検討いただきたい。

〈丹治委員〉

今回、このような事態が生じたのは、操作に不備があったのか。

【事務局】

原因については、現在調査中であるが、リフティングラインを引こうとして誤ってエンドレスラインを引いたことが想定される。

現在、関係者への聞き取り及び現地調査を行っており、検討を経た上で原因を特定したい。結果については、委員の皆様にご報告させていただく。

〈前田委員〉

長期研修の計画において、「林産利用」の科目で実技の時間が減となっている。具体的にはどう変わったのか。

【事務局】

研修として木材市場や木材加工施設の見学を実施しており、その場所を近いところに計画しなおしたことにより、移動時間が減った。実際の研修時間は変わらない。

〈飯沼委員〉

県が森林をどのようなかたちを目指すのか。そのために森林整備をどのように行っていくのか。それらを、アカデミーの研修において研修生どのように示していくのか。

【事務局】

「森林・林業の基礎」において、しっかりと学んでいただくようにしている。

〈半田委員〉

短期研修の計画において、「安全な伐木等作業技術」の講座については、技能検定の普及というのがテーマになると思うが、技能者をどのように養成していく考えか。

【事務局】

林業従事者をはじめとして、経営者の方々にも広く制度を知ってもらうことが、第一の目的と考えている。その上で実技形式の研修を実施し、高い技術力を持った現場指導者の養成に努めていく。

〈飯沼委員〉

地域の森林林業を誰に託すのか、経営方針を立てるうえで、森林経営管理制度は非常に重要。経営管理制度の法改正の動きについては、短期研修受講者 20 名に留まらず、市町村や事業体に向けてしっかりと周知していただきたい。

【事務局】

これからの森林林業の施業体制を考えるうえで、県、市町村および事業体の連携は必要不可欠と考えている。研修に限らず説明会等により周知することとしたい。

〈藤野座長〉

アンケートの結果にも、経営管理制度の研修は、研修そのもののボリュームが多く、説明スピードが速いとある。他県でも同様だが、行政の人が講師を務めるとこのような傾向がある。行政用語は、事業体の人にとって分かりづらい。市町村の人でも林業専門ではないので理解が追いつかない。

話す内容としては、ポイントを 1 / 1 0 くらいに絞って、行政用語を可能な限り排し民間の人に分かる言葉でゆっくりと説明すると、より良い研修になると思う。また、講師そのもの研修も必要に感じる。読み上げだけの研修が良い研修とは言えない。長期研修の講師は、研修生とのやり取りでノウハウがあると思うので参考になる。

議題（2）令和 7 年度就業前長期研修生の申請状況

【事務局】

（資料 3 に基づき説明）

〈丹治委員〉

後期試験の申請者 2 名と報告あったが、後期試験の今後のスケジュールを教えて欲しい。また、高校からの令和 6 年度の推薦選考申請者は 6 名いたのに対し、令和 7 年度の申請者はゼロ。どのような要因が考えられるのか。

【事務局】

後期試験については、2 月 5 日選考試験。2 月 1 7 日に合格発表を予定している。令和 7 年度の推薦選考申請者数については、県内の実業系高校 4 4 校を訪問した感触からすると、①高卒で就職する学生の人数が減ってきていること、②就職を選択肢として選んだとしても、林業以外の地元企業が選ばれることが多いこと、この 2 点が大きな要因はないかと思われる。

〈五十嵐委員〉

先日、会津方部で商工会主催の実業系高校生のインターンシップ発表会に出席した。その場で実業系高校生の進路相談の先生にアカデミーについて尋ねたところ、残念ながらアカデミーの存在について認知されていなかった。引き続き高校に対するアカデミーの周知は必要とされるものの、高校生にしぼって周知するのはハードルが高いかもしれない。

転職者にとっては魅力的な制度だと思うので、そこにアプローチをかけるのも有効だと考えられる。

また、若い世代の林業へのマイナスなイメージを払拭する必要性を強く感じている。そのためにも、林業業界全体として、林業事業体でも体質改善に向けて努力する必要がある。

#### 【事務局】

社会的な要因もあり、高校からの令和7年度の推薦選考申請者はいなかった。

委員からの意見のような旧態依然とした林業のイメージも一因にあったと考えている。アカデミーを通じて、安全な現場作業の手法を県内事業体に広めたい。そして、高校生にもそれをアピールし、林業への就職を選択肢に残してもらえるよう、努めたい。

〈高木委員〉

長期研修の募集人数は何故15人としているのか。

#### 【事務局】

令和4年度開講当時、県内に約80の認定林業事業体が登録されており、年間15人の研修生が各認定林業事業体に就職したとすると、およそ5年間で全県の認定林業事業体に長期研修の修了生が就業するという目標があった。また、そのほかに他府県の事例を参考に募集人数を設定した。

〈田子委員〉

先日、和歌山県に全国森林組合関係の催しに参加した。全国の森林組合長が人材確保に困っている中、静岡県の掛川市森林組合では、採用募集すると20～30人の応募が集まると聞いた。組合長は異業種から参入した人材で発想に富んだ取組みをいくつも実施している。たとえば、業務の一貫として、組合で施業した森林を職員がマウンテンバイクで年6回走行する機会を設けるなど、別角度からの見せ方も工夫している。木材や森林はもちろん大事なのだが、別な視点から見せる必要も感じている。

〈藤野座長〉

掛川森林組合の代表は、攻めの姿勢で物事に取り組む印象を持っている。事務所施設を事務員と現場作業員の動線をワンフロアにし、建築事務所かなと思うようなおしゃれな事務所になっている。

これからの時代、実務以外にもプラスアルファの取組みを実施するのが流行りになると考えている。アカデミーにおいても、木を伐る以外の研修生の取組を拒まず受け入れてあげる雰囲気をつくっていくと、アカデミーが更に良い方向に進んでいけるのではないかと。

**【事務局】**

現場に臨んでから何年か経つと自己流になることもある。アカデミーは学び直しのツールとしても活用できる。林業従事者の全体的なレベルアップを図り、人材確保につなげるためにも、森林組合をはじめとした林業事業体に対し、引き続きのお声かけをお願いしたい。

議題（3）令和8年度就業前長期研修生確保に向けた取組

**【事務局】**

（資料4に基づき説明）

〈掃部委員〉

アカデミーニュースは分かりやすくまとまった資料だと思う。当該資料の周知方法について教えてほしい。

**【事務局】**

ホームページでの掲載、市町村・サポートチームへの送付および施設内での掲示により周知している。

〈掃部委員〉

別の媒体でももっと周知した方良い。各種SNSにものせてはどうか。また、再雇者、移住者や自衛隊の早期退職者にアピールするのもPRの手段のひとつと考えられる。

**【事務局】**

自衛隊の訪問は既に実施している。また、研修生にも令和4年度に1名、令和5年度に1名、自衛隊経験者が受講していた実績あり。

〈飯沼委員〉

緑化協会では、県の森林・林業についてパンフレットを発行し、本年度は47の高校へ訪問し配布してきた。訪問した際の感触としてはかなり好評で学生に紹介すると言ってもらえただけに、高卒者ゼロというのはがっかりである。

このほかに、SNSに力を入れており、試行錯誤している。林業自体が魅力的にならないといけないと思い、コミュニケーション等の研修も実施している。業界としては、厳しい状況を乗り越えるべく頑張ってやりたい。

**【事務局】**

アカデミー周知に関して、様々な支援御礼申し上げる。県としては「ふくしま林業就業サイト そまナビ」を公開し、林業事業体の情報も順次公開していくので、ご協力願う。

〈五十嵐委員〉

3年目までの長期研修においては、研修生確保に向けてアカデミーの制度についてまずは知ってもらって来てもらうことを念頭に運営に当たっていただいたと考えている。

一方で、令和4年度の修了生から林業の離職者が発生した事案をみるに、林業従事者が継続して就職できるような現場づくりをする必要性が高いと実感している。初任給で考慮しても、その後は他業種のそれよりも低い現実がある。結婚して子育てしていくには厳しい。

高い給与水準のIT業界とは一緒にならない。今後の林業業界の発展のために現状やれることとしては、林業従事者に対し、最低限の保障はしつつ、生きる楽しみ方を提供する、両輪で支援する必要があるのではないか。そのためにも、各事業体の良いところについては共有すべき。また、木を伐って売って生活が営める、そういった基本の部分が不自由無くできるように、県からの支援も必要だと考えている。林業は大事な仕事であるが、適切に評価されていないように感じている。高い技術力が必要とされる業種であることが、今一度世間の認識に広がれば、誇りを持って林業従事者も仕事に臨めるものだと考えている。

【事務局】

県としても就業環境改善に向けた取組への支援を行っている。また、IT技術の導入についても併せて支援してきたところです。

#### 議題（4）研修の評価方法（案）

【事務局】

（資料4に基づき説明）

〈藤野座長〉

評価項目やシートそのものを、この会議の場で決めるものではない、という認識でよろしいか。本評価方法を決定するにあたっての今後のスキームを教えて欲しい。

【事務局】

この会議の場では、評価項目やシートそのものを諮るものではない。今後、令和7年度第1回運営会議において、案を含めてお示ししたい。

〈丹治委員〉

短期研修において、講座毎の評価を行うのは、担当した講師に対する評価なのか。

【事務局】

講師への評価ではなく、講座がどのような影響を地域や業界に与えられているのか等、講座全体の評価と考えている。

〈半田委員〉

各研修で評価のポイントが変わる。研修の良し悪しだけの評価では、評価しきれないのでは。求めている人材を送り出せているかどうかという林業事業体の意見をどう盛り込んでいくのか。ニーズを把握した上での評価になっているか。

【事務局】

講座の良し悪しに留まらず、現場のニーズに即したものかどうか、といった視点でも重要なポイントと捉えている。また、十分検討するところも多い。講師や他の皆さんからの意見を踏まえ、また意見をいただきたい。

〈藤野座長〉

委員への意見照会が今後実施される、という認識でよろしいか。また、具体的にはいつ頃までに検討するつもりなのか。

【事務局】

委員の皆さまには、今後メール等により意見照会を実施したい。時期については、年度内を目処に実施したい。

議題（5）その他

〈飯沼委員〉

議論する中で、アカデミーの運営上の問題だけでは解決できないものもいくつか話題にあがった。周辺情報も絡めて議論が必要になる。議論の切り分け方をうまく事務局側でコントロールしてもらえるとよい。

【事務局】

話を広げすぎると混乱するところがある。整理しながら今後は進められるように努めたい。

〈藤野座長〉

専門の分科会など、様々な可能性を考えていただければと思う。

【事務局】

令和7年度第1回運営会議は7月開催を予定。

以 上